



# 新潟支部会報

一般社団法人 大学女性協会新潟支部  
2024 年 3 月 No.12

## 目次

支部奨学賞授与式開催報告	1～4 頁	小林美代子さんを偲んで	6 頁
J AUW 国内奨学賞 支部国際奨学賞	4 頁	支部の動き	7 頁
2 月学習会報告	5 頁	お知らせほか	8 頁

## 支部奨学賞授与式 開催報告

(一社) 大学女性協会新潟支部  
第 74 回支部奨学賞授与式  
2023 年 12 月 2 日 (土)  
於 新潟市男女共同参画推進センター  
「アルザにいがた」



## 受賞者

- 中島 まなみ さん (新潟大学大学院 現代社会文化研究科 1 年)  
内宮 珠里 さん (新潟大学 医学部保健学科 4 年)  
高橋 佳世 さん (敬和学園大学 人文学部 3 年)

ごあいさつ ～第 74 回新潟支部奨学賞授与式開催にあたり～

支部長 大淵 智絵

大学女性協会新潟支部奨学賞は第 74 回を迎え、本年までに 984 名の新潟の女子学生に賞を贈り続けることができました。これまでこの賞を支えご尽力いただいた多くの皆様に、厚く御礼を申し上げます。

今年度の応募論文のテーマは「ジェンダー平等社会実現のためにすべきこと」です。具体的な答えを求めたことから、多くの応募者が苦心した様子でした。その中から、このテーマに真摯に向かい合ったことが読み取れ、ジェンダー平等の視点をもって今後のご自身の研究や活動の道筋を見通し、自分の言葉で書かれたものが採用となりました。昨今は、経済や文化をはじめ、あらゆる社会活動での人権意識がとても重要です。今回の小論文を通して、人間が等しく持つその人らしさや権利が誰からも侵されないことについて、次のリーダーたる若いみなさんの視野がさらに広がるきっかけになれば幸いに思います。女性の教育が社会をよくすることを信じ、それぞれの立場からではありますが、一緒に進んで参りましょう。

## 第 74 回支部奨学賞 受賞者論文要旨 「ジェンダー平等社会実現のためにすべきこと」

### 「ワンピースを着た体育科女子」

新潟大学大学院 現代社会文化研究科 現代文化専攻 1年 中島 まなみ



ジェンダー平等社会のために、私たちがなすべきことは「革命」ではなく「改革」である。ジェンダーを考える上で本当に必要なことは、二者択一で考え結論を出そうとするような「思考によるブレーキ」をかけることなく、それぞれ個人の選択を尊重するというのではないかと。そして、どの選択をしたとしても、個人の幸せを感じることができる社会というのが、本来目指すべき社会の姿なのではないか。そんな社会を実現するために、まずは公的な組織から率先して範を垂れるべきである。個々が表現する多様な生き方を認め、それを叶えることができる柔軟な社会体制への整備が必要

であると考えます。ステレオタイプ的な性別二元論を捨て去り、多様な「私」を表現できる言葉や表現力を個々が磨くこと、「公」が率先して社会の潮流を止めないように、性差によるステレオタイプに縛られない社会へと改革をするべきだ。



#### 【中島まなみさん自己紹介】

私は全ての方が健やかに自己実現、自己表現できる日本を目指し、公衆衛生学の観点から研究を行っております。

私は3歳の時からモダンバレエ、中学校の時にコンテンポラリーダンスを始め、高校からはジャズダンス、ストリートダンスを経験し、舞台の上で自己表現してまいりました。今後は新潟の文化芸術の発展や青少年の育成に貢献できる舞踊家として活動し、舞踊を通じて、私が考えるジェンダー教育の原点、個人の選択を尊重することの大切さを次世代に伝えていきたいと考えております。男らしさ女らしさを個人に求めるのではなく、多様な発想力とその実現について考えられる環境を整えることが大切です。また学校教育における性教育がジェンダーの考え方に与える影響について興味を持ち、プレコンセプションやプロダクティブヘルスの観点から性教育のあり方を検討していきたいと考えます。

### 「診療放射線技師の視点から」

新潟大学 医学部 保健学科放射線技術科学専攻 4年 内宮 珠里

将来、診療放射線技師として働く立場から、医療業界におけるジェンダー平等を考えました。特に診療放射線技師は、養成校の男女比は改善されているにも関わらず、未だに男性が多くを占めている職業です。診療放射線技師や医師は放射線を扱う職種であり、被ばくによる健康被害が懸念されます。医療従事者にとって働きやすい環境を整えるために、医療従事者の被ばくの管理や知識の周知、柔軟な就業形態作りが必要であると考えます。そこで、この小論文では放射線防護の三原則「遮蔽」「距離」「時間」に基づいた安全対策の実施や、妊娠中の女性の被ばく管理の徹底などによって、安心して働くことのできる環境づくりについて提言しました。基本的な放射線防護やライフスタイルにも対応できる就業形態作りに取り組むことで、医療業界におけるジェンダー平等の実現を目指したいと思っております。



#### 【内宮珠里さん自己紹介】

私は現在新潟大学医学部保健学科で診療放射線技師を目指しながら MRI について研究を行っております。先日初めて学会に参加し、発表を行ってまいりました。その中で感じたことは女性の診療放射線技師の数の少なさ、特に研究を行っている女性技師の少なさです。しかしながら診療放射線技師を目指す女子学生は増加傾向にあり、その後輩たちがその人らしく安心して働き研究することができる環境を整えていくことが私にできることだと感じております。医療の中の放射線技師という小さな場所からではありますが、ジェンダー平等社会の実現のために私自身が私らしく臨床業務や研究活動に励むことで少しでも力になれたらと思います。





## 「教育現場から考える男女格差と私が目指すジェンダー教育」

敬和学園大学 人文学部英語文化コミュニケーション学科 3年 高橋 佳世



私は現在、教師を目指して大学で学んでいる。大学での学びで興味をもったのが異文化理解教育だ。文化が異なる相手の違いを認め受け入れる、つまり個を尊重することは、男女平等社会の実現のためにも大切なことだ。しかし今の日本では個を尊重するのではなく、性別によって人々のあり方を決めつけている。日本人の根底にある男は仕事、女は家庭という考えは、今もなお格差や不平等感を生み出している。さらに男らしさ、女らしさの固定観念によって人生の幅を狭めている人々も存在する。

本論文では主に教育現場に焦点を置き、どのような場面で子どもに性別意識が刷り込まれるのか、男女平等社会の実現に向けて教師ができることは何かを考える。未来を担う子どもたちと共に、男女不平等の現状と向き合い、男女平等の実現に向けてできることについて考え、行動を起こす教師を目指したい。そして人々が自分らしく生きることができる世界を作りたいと考える。

### 【高橋佳世さん自己紹介】

私は現在敬和学園大学で英語教育について学び、高校時代に悩んでいた私を救って下さった恩師のように、生徒一人一人に寄り添い、その生徒の良さを生かし、全員が輝けるような授業を行いたいと考えております。

大学の学びで興味を持ったことの一つは異文化理解教育です。文化の異なる相手の違いを認め、受け入れるという異文化理解は他者との関わりで常に大切にすべきことだと思います。今の日本では個を尊重せず、性別によってあり方が決めつけられ、性別による差を感じることがあります。教師として未来を担う子供たちと共に男女平等社会の実現に向かい、人々が自分らしく生きることができる社会を作ることを目指し、これからもジェンダー平等について学び続けたいと思います。



## 会員よりお祝いのことば

西村 智奈美

受賞のみなさんおめでとうございます。皆様の論文要旨を拝見し、未来は明るくなってきたと思いました。日本は教育分野では男女平等の度合いが高いと言われてはいますが、経済・政治分野の意思決定過程に占める女性の割合が極めて少なく、他の国に遅れを取っています。しかし教育分野で男女平等の度合いが高いということは、今後社会が変わるきっかけになるのではないかと思います。皆様にはその際の中心的存在として頑張っていただきたいと願っています。

学校で学ぶ時には男女はほぼ同数ですが、社会に出ると違います。例えば衆議院では9割が男性。1割にも満たない女性議員で時に連帯して頑張りますが、うまくいかないことも多いです。ですが、ここまでの女性の地位を築いたのは私たちの前を生きた先輩方です。先輩方の頑張りのおかげで女性に参政権ができました。皆様にも次の時代を生きる人たちのために、前を向いて頑張っていただきたいと思います。ご健闘をお祈りしております。

打越 さく良

おめでとうございます。論文要旨を読ませていただきました。若い方たちが問題意識を基にしっかりと研究を進めておられて、本当に未来は明るいなど心強く思いました。

私も、女性や子供たち、困っている人たちのために研究が役に立つことがあるのではないかと考えて、大学院の博士課程で学びました。弁護士になり、今は国会議員として政治の場にはいますが、様々なところで、この問題をどう考えるべきか、国会で取り上げていくにはどのような切り口があるかなど、研究者になった仲間たちに意見を聞くことがあります。一つのことを緻密に研究する方たちの知、英知は社会を支える土台になるのです。仮説を立て、色々な文献を幅広く読み、更に仮説を練り直していくのは途方もなく大変なことです。しかしそうした問題意

識が社会の下支えになり、未来を築いていくものになると確信しています。皆様を心から応援しています。

### 佐藤 拓一 (賛助会員)

昨年は受賞者の指導教員の立場で出席しましたが、今年は賛助会員として出席しました。女子学生を応援する活動や、この授与式に男性の参加があるのも良いことだと思います。

受賞者の論文要旨を拝見して、この問題や応募への前向きな取り組みが良くわかりました。教育分野に関する論文もありましたが、特に大学は教員に女性が少ないことを私たちも問題に感じています。そのような中でも私が所属する新大の検査技術科学分野では研究者・指導者の男女比率が半々です。ですので、それが実現できていないところでは、なぜできないのか尋ねたり考えたりすることが大事だと思います。皆さんが今後の研究を深め、女性の教員が増えるよう期待しています。私も指導の立場からひきつづき応援したいと思います。

#### (一社)大学女性協会新潟支部第74回支部奨学賞授与式

日時：2023年12月2日(土) 11:00~11:45  
会場：新潟市男女共同参画推進センター  
「アルザにいがた」307・308 研修室

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 次第                  | 司会 阿部美知子            |
| 1 開会                |                     |
| 2 奨学賞授与             |                     |
| ・新潟大学大学院現代社会文化研究科1年 | 中島まなみ               |
| ・新潟大学医学部保健学科4年      | 内宮 珠里               |
| ・敬和学園大学人文学部3年       | 高橋 佳世               |
| 3 支部長挨拶             | 大淵 智絵               |
| 4 祝辞                | 西村 智奈美、打越 さく良、佐藤 拓一 |
| 5 受賞者スピーチ           |                     |
| 6 会員からの贈ることば        |                     |
| 7 閉会                |                     |
| 8 写真撮影              |                     |

## JAUW国内奨学生・支部国際奨学賞

### 2023年度JAUW国内奨学金 報告

新潟支部推薦より一般奨学生に採用  
エカチャエリヤンティ ザインさん

EKACHAERY ANTI ZAIN

新潟大学大学院医歯学総合研究科 博士課程3年  
研究テーマ「キュー刺激課題遂行中の脳磁図を用いた  
インターネットゲーム障害患者のグループ心理療法  
による脳活動変化の評価」

ザインさんはインドネシア・サマリンダのアトマ  
フサダ マハカム精神病院にて専門医として勤務を経て、現在は新潟大学大学院に留学されています。1月13日(土)には東京の学生会館にて授与式が挙行され、その様子はJAUW会報での報告をご覧ください。

支部では、4月27日(土)に開催する新潟支部総  
会にザインさんをお招きして、受賞された研究内容に  
ついてお話をいただきます。事前のご質問は支部長ま  
で。奮ってご参加ください。

### 新潟支部国際奨学賞 (ベトナム奨学賞) 報告

2022年度から4年間の支援を予定していたクワン  
ティ トウイエンさんより、経済的な安定を得ることが  
できたためとの申し出があり、代わってドゥアン  
ティ カン リンさんに2023年度から3年間の支援  
を行うことにいたしました。

氏名 ĐOÀN THỊ KHÁNH LINH  
大学 University of Information Technology  
専攻 Computer Networking and Data Communication  
カン リンさんへの奨学金は NVC 新潟国際ボラン  
ティアセンターの三上杏里代表(当会会員)を通じて、  
3月3日にホーチミン市にて授与されました。当会  
の支援を活かし、カン リンさんの学生生活がますます  
充実することを願っています。

このたび支援を途中辞退されたトウイエンさん、彼  
女の尊い思いやりを私どもも忘れることなく、今後ま  
すますのご活躍をお祈りしたいと思います。

ドゥアン ティ カン リンさんより  
親愛なる大学女性協会新潟支部の皆様  
この度はご支援くださりありがとうございます。奨学  
金のおかげで、より多くの学習への機会と夢へ向かう  
ことができます。皆様に感謝いたします。



## 2 月 学習会報告

### 国際交流部学習会「モンゴルの経済と女性の役割」

国際交流部 田代信子

日時：2024 年 2 月 24 日 (土) 13:30~14:30 オンラインでの開催 参加者：10 名

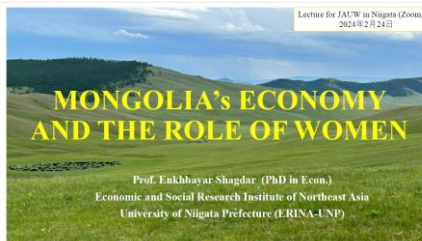
講師：シャグダル エンクバヤルさん 新潟県立大学北東アジア研究所 教授



エンクバヤル教授

エンクバヤル教授はモンゴル出身。モスクワ軽工業大学で機械エンジニアを学び、卒業後、皮革製品企業への勤務がキャリアのスタート。その後にオランダ留学、モンゴル産業省勤務を経て、1999 年国際大学大学院で博士号取得。2001 年 9 月より環日本海経済研究所 (ERINA※) 勤務。ERINA を引継いで 2023 年 4 月新潟県立大学に開設された北東アジア研究所の教授として現在に至ります。モンゴルは近い国でありながら新たに知ることが多く、国際大学留学生のジル・ゴロバさん、愛知支部の賀集イレーネさんも参加され、有意義な学習会となりました。

(※) 1993 年に新潟県と民間企業の出資により設立されたシンクタンク



#### ●モンゴルの概要

国土は日本の 4 倍の広さがあり、ほとんどが農業地で 7 割が遊牧地である。人口は 3,458 万人、都市ウランバートルに人口の 7 割が住む。1990 年社会主義から市場主義に移行した後に人口減少がみられたが、現在は 1.4% 上昇している。70 歳以上の人口は 2.4%、15~69 歳までが 65.5% を占める。平均寿命は男性 67 歳、女性 76 歳。政府は、大統領と国会と国会から選出された総理大臣で組織されている。歴史は 1206 年にチンギス칸が作ったモンゴル大帝国に始まり、時代の変遷後、1921 年にロシアのサポートを受けて社会主義国になる。現在は、ウランバートル市のスフバートル広場の周辺には国会議事堂、オペラハウス、ホテル、銀行、ショッピングモール、美術館がある。

#### ●マクロ経済の現状

10 年間の GDP 成長率は、2020 年のコロナ禍で 4.6% のマイナスになったが、翌年 2021 年からは V 字回復している。現在一人当たりの GDP は 5,000 ドル、それでも日本の 10 分の 1。農業における GDP の割合は 12.8% だが、農業に従事している人の割合は、高い。内訳は、8 割が家畜、2 割が作物である。産業は、鉱物資源が 6 割、製造業が 3 割である。鉱物資源の大部分は、石炭である。貿易は、2014 年に銅の開発と輸出により黒字化した。輸出は資源が大半を占め、主な輸出相手国は、中国とスイスで、日本は全体の 0.1% である。輸入相手国は、中国とロシアで 6 割を占めている。モンゴルは資源国なので、製造業はまだ発展していない。

#### ●モンゴルの女性の役割

女性議員の割合は、国会議員が 76 人中 13 人、市議員が 813 人中 131 人、村議員は 3 割が女性である。モンゴルの経済における女性の社会的役割は大きく、働いて収入を得ている女性は、日本よりも比較的多い。また、業種は、サービス業 (レストラン)・教育機関・健康・社会活動で働く女性の割合が高い。一ヶ月の平均給与は男性 9 万、女性 7 万と女性が少し低く、教育従事者の給与は低いほうである。会社の規模は、中小企業が 99.5% を占めている。4 割の会社の社長は女性である。専門学校、大学においても女性の教員が多い。学生数は、男性よりも女性が多い。

#### ●質疑応答

ファミリーネームは使用せず、父親の名前を使用することについて、質問があった (エンクバヤルさんの「シャグダル」は姓ではなく父の名前)。モンゴルは、人口の 7 割が同じファミリーネームのため、使用はしない。婚姻後も名前は変わらない。子どもが生まれたら、子どもは、父親の名前と自分の名前を使用する。そのことについて、女性はあまり気にしない。



追 悼

小林美代子先生を偲んで

長谷川道子



奨学賞授与式での  
小林美代子さん

思いもかけぬこと、小林美代子先生の訃報を知ったのは 2023 年 7 月の新潟支部会報 No.10 の記事からでした。新型コロナ禍の下、一瞬に何とも言えない脱力感におそわれ、悲しさと悔しさが込みあげてきてどうしようもありませんでした。

思い返せば、私が先生にお会いし心を奪われたのは、大学婦人協会支部例会の時でした。当時支部長の小林先生は、数ある議題の一つ一つに、和やかな雰囲気の中で十分な発言機会を与え的確にまとめて処理をしていかれる。その伶俐な姿に魅せられました。この頃(昭

和 50 年頃)、各婦人団体からも「女性の教育委員を」の声が集まり、小林先生を新潟県教育委員に推薦する気運が高まっていました。当時は教育の荒廃が問題視されており、小林先生が教育委員長になられてからは、その広い視野と洞察力・公正な判断で、情熱をもって活躍される姿が教育委員会を蘇らせたと言っています。子どもを育てる母の立場や乳幼児・小中学校の学校教育・生涯学習・スポーツや文化にと、広く心や目を配られていました。

大学婦人協会→一社団法人大学女性協会→一般社団法人大学女性協会と本部の移行と共に新潟支部も移行することになり、その新規約作成の時は協議に参加くださるのみならず、配付資料で意見を問う時は真摯に考察いただき書面にて指導くださる等、感謝でした。

多方面の重要ポストについておられる先生のご多忙は解っていましたが、新潟支部の今日に至るまでの歩みをズーッと共に活動くださった先生に例会での講話を、70 周年を見据えて 2013 年度にお願いしました。先生は時間を作り応じてくださり、解り易い様にレジュメまで用意があり、先生の惜しみない努力の連続と強い実践力・多くの先輩方々の苦勞を伺い知ることができ、実の大きい講話でした。

ある年の支部旅行で、バスが先生の隣席でした。車窓を楽しみながら、先生ご自身の旅の四方山話で私は楽しませて頂きました。旅の出発から帰宅まで、国の内外を問わず準備万全で、私には及びもつかぬ事ばかりで面白く話に引き込まれ、長年の知己であったような心安さを覚えました。降車後の散策は、何の躊躇もなく先生と腕をからめて、歩き易い足場を選んで歩いていました。昼食のテーブルには美味しそうな料理が待っていました。先生は「美味しそう!!こんなに沢山いただけるかしら?」と。隣の私に「あなた、手伝ってくださる?」。思いもよらぬ問いかけに、「はい!私の胃は伸縮自在でゴムの様なんです。喜んでいただきます。」と答えていました。この会話からも、食事は二人三脚で完食でした。こんなにもうちとけた喜びいっぱい旅でした。

先生、本当にありがとうございます。常にお洒落で顔面静かに微笑んでいらっしゃる先生は、私の心の支えです。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(合掌)

小林美代子さんが書かれた「教育委員として」(大学婦人協会新潟支部創立三十周年を記念して 昭和 55 年 4 月発行)を、付録として会員の皆様と同封いたします。WEB 上では 8 面の QR コードからご覧になれるようにしました。美代子先生からは度々会員に向けて講話をいただきましたが、その中から 2014 年 2 月例会でのお話の一部を掲載します。当会の活動における道標となることでしょう。

2014 年 2 月例会から／小林美代子会員 「新潟支部のおいたち」より

1947 年に新潟支部が結成されて本年で 67 年になる。よくも続いている社会教育団体であると思う。

高等教育を受けた会員の集まりであり、女性として種々の制約があるにも関わらず、目的である女子教育の向上に果たした実績の一つが、現在四年制の男女共学の県立大学であろう。また、奨学賞を贈る活動もその一つである。

社会生活の改善については、少女の社会性を高めるガールスカウト活動への支援や、ごみ問題への取り組み、そして女性議員を増やそうの運動の先頭に立ち、成果を上げてきた。

国際理解と親善に尽くす面においても、現在奨学賞を贈る大学生にベトナムの女子学生をも対象にしていることは、目的に合った活動と思う。時々の外国文化を、外国の方や会員の方から聞く例会で、国際理解に役立っているとも思う。

私は会員として研究活動に参加して、研究の仕方、あり方など勉強させていただき、仕事の面でも、物事の考え方の面でも、得ることが多くありました。いろいろの方と接することでその方々の良い面、良い考えを参考にしながら生きていかれることは、大学女性協会の会員であることの賜であり、誇りであると思うのです。人と話し合う、考え合う、行動活動しあう、という経験は、人を成長させるように思うのです。

## 支部の動き 11月～2月

### 【11月】

- 11/6 関係各所に会報郵送
- 11/12 アルザフォーラム出席/阿部、大淵
- 11/13 新潟市中央公民館定期利用団体登録
- 11/15 JAUW サイトの支部ページ情報更新
- 11/15 お知らせメール 国内奨学生受賞の報告
- 11/16 第14回通常総会について打合せ第1回目（ニコット）
- 11/21 新潟県女性財団30周年記念懇親パーティー  
出席/五十嵐、大淵、高橋、西村（個人での参加者も含む）
- 11/15 奨学賞担当者作業（メール）
- 11/30 支部奨学賞授与式のための親睦部作業

### 【12月】

- 12/2 第74回新潟支部奨学賞授与式（アルザにいがた）
- 12/7 支部奨学賞受賞者と前年度受賞者へJAUW会報等を郵送
- 12/11 受賞者3名へメール連絡
- 12/12 アルザにいがた、ニコット利用登録申請
- 12/13 親睦部作業/授与式報告
- 12/15 本部調査研究委員会インタビュー協力者へメール連絡
- 12/18 会員へお知らせメール/交流団体からの案内
- 12/20 支部役員へメール連絡/日程等相談、報告多数
- 12/28 親睦部作業/授与式報告書
- 12/26 全国支部長忘年会（zoom）
- 12/31 本部調査研究委員会インタビュー協力者へメール連絡

### 【1月】

- 1/2 会員へ連絡メール（地震の状況確認）
- 1/24 会員へ郵便発送（例会案内、臨時総会報告、地震の状況確認、奨学生決定報告など）

### 【2月】

- 2/1 第14回通常総会打合せ2回目、第1回実行委員会（zoom）
- 2/7 第5回役員会、評議員会（ニコット）
- 2/14 次年度事業計画案と予算案を本部に提出
- 2/24 2月例会 国際交流部学習会「モンゴルの経済と女性の役割」（zoom）/参加10名  
講師 シャクダル・エンクバヤルさん 新潟県立大学北東アジア研究所 教授
- 2/20 会報担当打ち合わせ（メール）
- 2/27 本部調査研究委員会インタビュー報告会への出席（zoom）/大淵
- 2/28 国際交流部作業/例会報告



## お知らせ

○2024年度 支部総会の開催について

4月27日(土) クロスパルにいがた301講座室

2023年度JAUW 国内奨学生 新潟大学大学院 エカチャエリヤンティ ザインさんを招いて

○第13回定時会員総会および全国総会

日時 2024年5月11日(土) 支部長会・懇親会、5月12日(日) 総会、5月13日(月) 研修旅行

会場 ホテル ルブラ王山 名古屋市千種区覚王山通8-18 052-762-3151 (総合)

\*今年の全国総会は名古屋での開催です。詳しいご案内、申し込み要項は本部より会員の皆様あてに郵送にて通知です。よくご覧になりお申し込みください(支部長への参加報告もお願いします)。来年の新潟開催に向けた視察と位置づけ、より多くの新潟支部会員の皆様からご参加いただけますようお願いいたします。

○1月1日に発災した能登半島地震に関して、支部では会員のみなさまへ被災状況伺いの郵送を行いました。はがきの返信をいただいた中には、半壊、準半壊とご自宅に大きな被害を被った会員もいらっしゃいました。謹んでお見舞いを申し上げます。

ほかに「近隣に外出すると甚大な被害状況が目に残り、気持ちが沈み心が痛む」「揺れに対する恐怖が大きなストレス」「被害の大きな方や地域に何かできることはあるか自問している」「家財の整理を始めた」「諸手続きや工事のための転居が老体に煩わしい」「皆様にお見舞い申し上げたい」「当面の復旧と長くなるであろう復興に尽力したい」といった声が寄せられました。(支部長)

### 編集後記

2023年12月2日(土) 支部奨学賞授与式が行われました。授与式に参加していつも思いますが、若い方がしっかり育っているという事です。今回の3名の受賞した女子大生の皆様も自分の言葉で、分かり易く、明確に結論を導いていて大変頼もしく思いました。今回は会員で国会議員の西村智奈美さん、打越さく良さん、賛助会員で新大教授の佐藤拓一さんからお祝辞を頂き、小さな授与式でしたが充実した内容のお式となりました。これからも、この奨学賞が地域の若い女性の研究の一助になっていきます事を願っています。

阿部美知子

Another shot



新潟支部ウェブサイト

支部の活動報告を主に発信

(小林美代子さん記事もここから)

<http://jauwniigata.blog.fc2.com/>



JAUW 本部ホームページ

本部発信。支部のページからは過去の支部資料もご覧になれます

<https://www.jauw.org/>



会報担当 (五十音順)

阿部、大淵、三上、吉谷

新潟支部会報 No.12

(一社) 大学女性協会新潟支部

支部長 大淵智絵

<http://jauwniigata.blog.fc2.com/>

発行日 2024年3月15日